

だんないの道

第39号

2019年5月1日発行

発行者：NPO法人CIL だんない

代表者：美濃部裕道

連絡先：〒529-0423 滋賀県長浜市木之本町
千田681番4

TEL : 0749-50-3639

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

代表あいさつP1	副代表（理事）退任のご挨拶P2
副代表（理事）就任のご挨拶P2	統括局長（理事）就任のご挨拶P2
活動報告P3	コラム ヨリの雑記帳P4

代表あいさつ

「平成から令和へ」。元号も改められ、世間では新しい時代の始まりに盛り上がりつつあります。滋賀県においても、「障害者差別のない共生社会づくり条例」が4月1日より施行されています。だんないとしても、新しい時代に向けて、より健常者と障害者が分けへだてのない社会が築かれるように全力投球していきたいです。

この度は、当法人の重要なご報告があります。4月1日付で役員改選を行いました。市川から、一身上の都合で副代表ならびに理事の任を解いてほしい旨の申し出があり、理事会に諮り、承認されました。突然の申し出で、私たちが衝撃を受けましたが、自分のための時間を作りたいという彼の思いを尊重したいと受け入れることとしました。今後は活動員として活動していくこととなります。

市川は設立当初から8年間、副代表として職責を果たしてくれました。今回、このような報告をさせていただくことになり、とても残念ではありますが、お互いの活動の歩みをより充実されるべく再スタートを切りたいと思います。新役員の体制は以下の通りです。

代 表	美濃部 裕 道
副 代 表	谷 口 健 人
理事（事務局長）	頼 尊 恒 信
理事（統括局長）	小 里 和 也
理事（外部理事）	横 山 卓 馬

今後とも、変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。



さて、今年も5月11日（土）13時より、周年記念シンポジウムを開催させていただきます。テーマは「親子の壁を越えていきたい！！」です。これまでの障害当事者と親や家族の関係は、青い芝の会の横塚晃一著『母よ、殺すな！』に象徴されるように、どちらかと言えば対立していたと思います。しかし、私たちはそのような対立関係は、もう終わりにすべきだと思うのです。これからは障害当事者とその家族は対立するのではなく、同じ方向に向かって歩いていく必要があるのではないのでしょうか。障害当事者とその家族との関係について、改めて皆さんと考えたいと思います。皆様、こぞってご参加くださいますようお願いいたします。

次に、定期総会のお知らせです。**5月28日（火）午前10時より**、当法人事務所にて定期総会を開催させていただきます。会員の皆様におかれましては、何かとご多忙のこととは思いますが、総会へのご出席をいただきますようお願い申し上げます。

令和は、どのような時代になるのでしょうか。健常者・障害者という分類さえもなくなるほど、インクルーシブな（共生）社会が実現されていくことを願ってやみません。

美濃部 裕道

副代表（理事）退任のご挨拶

市川正太

だんない設立から約8年間、副代表(理事)として活動してきました。

この度、3月末付けをもち、副代表の役職を退任させていただきたいとの申し出をし、了承していただきました。

私は、障害のある人々が施設や親元ではなく、地域で自立生活ができる環境を整備したいという思いが強くあります。それは、だんないの方向性としても、皆さんも同じ共通している思いを抱いているはずで、その思いに変わりはありません。

私には、そのための場所を自分の力で作ってみたい、そのような思いがあります。

新たな活動と、だんないの役職を兼務することは、どちらも中途半端になってしまうと考えます。だんないに迷惑をかけてしまうことを避けるため、勝手ながら、このような決断をさせていただきました。

役職は退任となりますが、だんないの一員として、共に活動していくことに変わりはありません。これまで以上に関わりを増やし、共に活動していきたいと思っています。

今年度から新体制として、だんないは始動しています。

今後とも、変わらぬご支援とご協力を、どうぞよろしくお願い申し上げます。

副代表（理事）就任のご挨拶

谷口健人

この度、副代表に着任いたしました谷口健人です。

私は、だんないで活動して5年ほどになります。「どんなに重い障害のある人でも、地域で自立生活が営めるよう、環境を整え」、自己実現へと向かう生き様こそが「自立」生活であるとの立場で、この社会を「障害の社会モデル」の障害観へと変革し、障害者が障害者である自分のまま、自分らしく生きていける社会を実現しようというだんないの理念に共鳴し、また、「田舎にこそ、障害者自立生活センターが必要であり、田舎をこそ、変えていかなければ。」というだんないの思いに共感し、これまで活動してきました。

この度の役員改選により、これまでの「社会づくり担当」から副代表へと役職は変わりますが、初心を忘れることなく、誰もが自分らしく生きていける社会の実現のため、活動していく所存です。会員の皆様におかれましては、今後とも変わらぬご支援とご協力をお願いいたします。

統括局長（理事）就任のご挨拶

小里和也

この度は、4月1日から統括局長(理事)に着任いたしました。

これからも、だんないの目的である「ひとりでも多くの人に地域生活を広めていく」「みんなと共に」ということを日々意識して活動を続けていきたいです。そして、新しいことにもどんどん取り組んでいきます。

みなさん、よろしくお願いいたします。

活動報告

4月2日	ぼてとファーム訪問	美濃部
6日	彦根 ILP 会議	小里
8日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 当事者サポーター推進委員会 全体会議 in 長浜市役所	美濃部 谷口
10日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 事務局会議 in 長浜市役所	美濃部
11日	バリアフリー調査&啓発	小里 谷口
11日	JILインクルーシブ企画スカイプ会議	頼尊
12日	だんない企画会議	
13日	ピアカウンセリング委員会 タウン訪問	小里
16日	代筆投票会議 in 大阪	頼尊
16日	重症心身障害者通所施設 えがお ピアカウンセリング公開講座	美濃部 小里 谷口
17日	強制不妊裁判 in 大阪	頼尊
17日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 虐待防止分科会 in 長浜市役所	美濃部
17日	だんない8周年記念シンポジウム打ち合わせ	頼尊
17日	だんない祭り打ち合わせ	美濃部 小里 谷口
18日	バリアフリー展覧会 in 大阪	頼尊 谷口
19日	JIL 関西ブロックヤング委員会会議 in ぱあとなあ	小里 谷口
19日	だんない8周年記念シンポジウム打ち合わせ	頼尊
20日	アクセスマニア集会 in 京都	頼尊
20日	電動車椅子サッカー練習 in 木之本体育館	
21日	ボッチャ交流会 in 高月体育館	美濃部 小里
22日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会 権利擁護部会 in 長浜市役所	美濃部
22日	だんない8周年記念シンポジウム打ち合わせ	頼尊
23日	だんない学習会(求人を中心とした運営について)	
24日	代筆投票裁判 in 大阪	頼尊
24日	長浜米原しょうがい者自立支援協議会運営委員会会議 in 長浜市役所	美濃部
26日	第2回だんない祭り実行委員会会議	
27日	たじみトライ2019	頼尊
29日	あつまろう会(ゲーム大会)	

・参加者の欄が空白のところは、当事者職員がほぼ参加(欠席者が1人あるいは2人)していたことを表しています。



ヨリの雑記帳（38）

今回もいつものように編集日ギリギリになって、この原稿を書いている。毎回にたようなシュチュエーションになって同じようなことを考えているような気がする。「シセツや親元を出て、街で暮らす」というキャッチフレーズで語られてきた自立生活運動について、あれやこれや考えていきたい。

昔から「地域の中で暮らす」というキャッチフレーズは、障害のある私たちもごく当たり前の生活を望んでいるというメッセージを伝えてきた。それは、「ごく当たり前のこと」を「ごく当たり前のように」しようとする試みであった。だから、「当たり前のこと」を主張しているはずであったが、それさえも「革新的なもの」、「前衛的なもの」として受け取られた時代が長くある。だからこそ、障害者の自立生活運動はワガママとしてとらえられたり、高嶺の花として見られたりしてきたといえる。

そのような自立生活運動であるが、地域生活がある程度できるようになって、その革新性や前衛性の色が薄れてきたように感じる。もちろん、「ごく当たり前のこと」を望んできたのだから、そこに革新性や前衛性を求めること自体がおかしなことであるという考え方もできるだろう。だが、障害者が現在において「ごく当たり前のこと」を「ごく当たり前のように」できる社会になってきているかといえば、まだまだほど遠い現状があるだろう。そのような現状において、一部の人々が地域生活ができてきているからといって、「地域生活は、ごく当たり前のことのようになってきた」と言い切っているのだろうか。まだまだ多くの障害者が施設や病院で生活をしている。そのような現状を考えると、まだまだ地域生活は「ごく当たり前のこと」ではないと言える。

ではなぜ地域生活が革新性や前衛性の色が薄れてきたように感じるのだろうか。もちろんそれにはいくつかの要因があるだろう。一般的には、障害福祉サービスが普及し、地域生活がある意味で捨て身の覚悟での障害者運動の結果に得られるものではなく、サービスメニューの1つになったことが原因であると言われている。この指摘はある意味では的を射ているだろう。ただ、その指摘も納得がいくものであるがそれに付け加えるように、障害者自身が革新性や前衛性を求めなくなったということ、あるいは社会の人々が革新性や前衛性に無関心になってきているということがあるのではないだろうか。つまり、学生運動や労働運動などに代表される革新性や前衛性を求める社会から、安定を求める世の中へと変貌してきたのではないだろうか。その社会の大きな変化の中で、障害者運動の意味が変わってきたといえるのであろう。だからこそ、「自立生活」が「運動」につながらなくなる時代がやってきたとも言えるのではないか。ひと昔前、革新性や前衛性を求めた障害者運動をある映画監督は「熱く、激しく」というメッセージと共に語ろうとした。そのような時代は過ぎ去ってしまったのだろうか。現代における「自立生活運動」のキャッチフレーズとは何だろうか。

私はまだその問いに対する答えを持ち合わせていない。ただ、「熱く、激しく」というキャッチフレーズは時代の流行で終わらせてはならないものがあると考えている。「熱く、激しく」というキャッチフレーズから、時代は昭和、平成、令和と時が流れた。その中で移りゆくもの、より普遍的なものを見定めていく時代が来ているのかもしれない。

(よりたか つねのぶ)

NPO 法人 CIL だんない

代表 美濃部裕道、副代表 谷口健人
 事務局長 頼尊恒信、統括局長 小里和也
 理事 横山卓馬

URL : <http://cil-dannai.jp/>

郵便振替口座番号 : 00940-2-209115

〒529-0423

滋賀県長浜市木之本町千田681番4

TEL : 0749-50-3639

FAX : 0749-50-3961

E-mail : dannai@ae.auone-net.jp

加入者名 : NPO 法人 CIL だんない